

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	保育内容（環境）		
担当者(Instructors)	堀 建治	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要(Course purpose/outline)
幼稚園教育要領に示された保育内容領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する指導計画方法を身に付ける。また、視覚教材やICT学習によって、領域「環境」において幼児が経験していく内容、他領域との関連、幼稚園教育における評価の意義、保育実践の動向や現代的課題等を理解して、保育構想の向上へと取り組む力を習得する。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	本授業は講義と演習を併用する。ディスカッションやグループワークを導入し、領域や保育内容について相互に理解を深める。受講生の主体性、意欲を強く求める。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	領域「環境」とは 幼稚園教育の基本、資質・能力、育ってほしい姿	・領域「環境」のねらい、内容、全体構造の理解 ・予習：「自然との触れ合う」「発見を楽しんだり,」「物の性質や数量,文字・・の感覚を豊かに」とは	☐
第2回	3歳児の保育を視聴覚映像から学ぶ	・予習と「環境構成」「保育者の援助」に着目して ・参加したい保育内容場面	☐
第3回	自然環境という身近な生き物や植物に親しみを持ってかわる	・著書『センス・オブ・ワンダー』の内容とは ・生き物の飼育と留意点	☐
第4回	領域「環境」のねらいと内容	・5領域の中の「環境」と領域「環境」がめざすもの ・「内容の取扱い」について	☐
第5回	「育ってほしい姿」と領域「環境」	「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」の意味や遊びの内容を理解する	☐
第6回	5歳児担当教師と子どもの動きから	人的、物的環境・共同画活動の導入、5歳児の砂場遊び場面やすき間時間の活用技術について理解する。	☐
第7回	指導案作成について	・幼稚園教育要領 保育内容「環境」、幼稚園の教育課程等を参考に個々に立案する。	☐
第8回	「自然」との触れ合い、「発見」を楽しむ、「物の性質や数量,文字・・の感覚」を豊かにする「ねらい」と「内容」	・演習計画案（3,4人グループ内にて「ねらい・内容」「導入・展開・まとめ」案の確認をする。	☐
第9回	日常生活の中で行事に親しむための指導案計画 ・行事の保育指導案計画案を立案する（部分指導）	・行事の保育指導案計画案を立案する（部分指導）から模擬保育の実践	☐
第10回	日常生活の中で行事に親しむための伝承と文化とは ・承行事、文化(記念日)へのかかわり	・視聴覚情報機器の具体的な利用法、教材の活用内容の具体的な提示、パネルシアター、エプロンシアターを扱う保育教材の効果的役割を理解する。	☐
第11回	日常生活の中で行事に親しむための自発的につながる保育内容とは	・指導計画の作成手順や子どもの姿と保育のねらい、保育内容について理解する	☐
第12回	グループワーク後－視聴覚機器による演習：指導案の実践、発表手順の説明：模擬保育その1	・保育者の専門性（指導計画を作成手順）について理解する。幼児理解と予想する幼児の姿、環境の構成、教師の指導や援助について理解する	☐
第13回	視聴覚機器による演習：指導案の実践記録、ふり返り、受けた指導・助言の説明：模擬保育その2	・保育と行事 部分保育なら造形表現：季節の壁面構成、季節の行事（アジサイ祭、運動会遊び、お月見）、日常の鬼遊び、クイズ遊び	☐

第14回	視聴覚機器による演習：指導案の実践、 ：模擬保育その	・ 幼児の特性や計画的な環境の構成とは 導入、展開、まとめ ねらい 教師の言葉 幼児の姿を予想する	☐
第15回	授業内レポート（確認テスト）	・ 授業での学びについて筆記形式で確認を行う。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details) 事前学習は、各回でのトピックを教科書を中心に読み込むとともに、不明確な点については文献、インターネット等で確認する（2時間程度）。事後学習はノートやプリント等で振り返りをしつつ、不足分について関連文献を読み込み、資料収集を行い、成果の定着を図る（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback) 指導案作成や各種課題については授業時間内に適宜、返却する。 授業時間外の場合はオフィスアワー、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時対応する。
--

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	保育者として幼児教育・保育の現場に存在する多様な問題や課題に正面から向き合うことのできる力強い思考力・判断力を持ち、豊かな表現力を習得できている。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			20%	80%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 「授業内試験」：授業で得られた知識の理解度及び技術の修得度について、筆記及び実技試験にて確認する。 「その他」：各種提出物や課題について、質、量ともに評価する。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	新・保育内容「環境」ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録	978-4-909378-53-8
2	「幼稚園教育要領解説」（文部科学省）フレーベル館	978-4-577-81447-5
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		